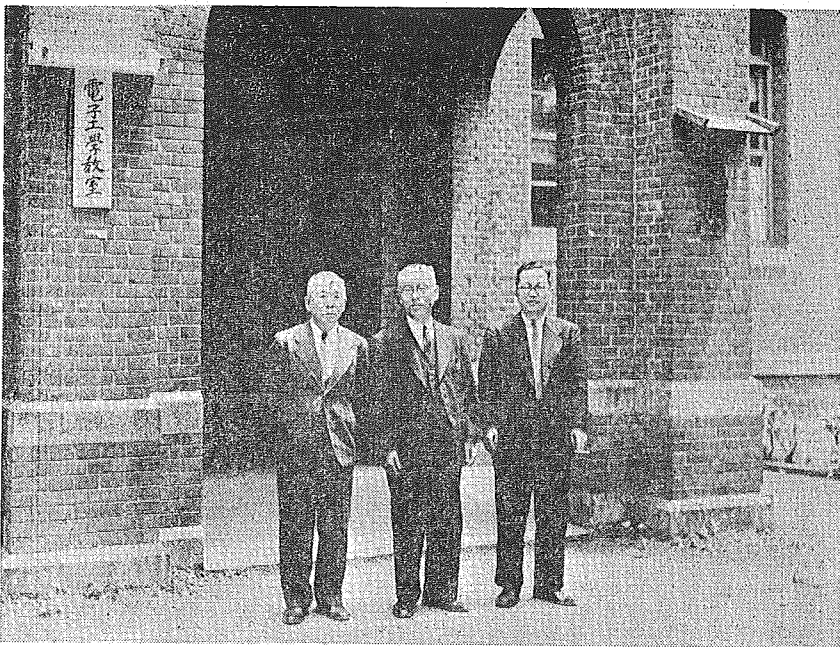


洛友会々報

京都市左京区吉田
京都大学工学部
電気科教室内
洛友会



電気工学教室の弟分として電子工学教室が生まれた。そして、その眞新しい標札が玄関の入口に掲げられた。木の香も新しく、墨痕は匂うようである。電子工学教室と筆を執つたのが加藤信義教授。恐らく加藤先生は腕をさすつて書かれた事は間違いない。額に汗をされたかどうかは不明。因みに向つて右に掲げられた電気工学教室の標札は、時代の雨露にさらされ、字さえ定かに見えぬ程になつてゐる。この方は岡本先生が腕を揮つて書かれたと伝えられている。

關西支部總會における挨拶

支部長 石川芳次郎

昨年の本日、場所も同じこの中央電気俱樂部で洛友会關西支部の発会式を挙行いたしました。から満一年、茲に第二回の支部總會を開催するに当りまして、益々健康な皆様のお顔を拜見いたしますことは私の喜びとする所であります。

本年三月末におけるわが電気工学科の卒業生は二、一七四名でありまして、その中居所別者は一、七二九名で關西支部区域には七五七名が在任しております。即ち全会員の約四四％が当地方において電気事業界その他に活動しつつあるのであります。

さて支部としての活動は東京が第一でありまして、会員数は四七五名であります。種々な事業を計画する外、家族会の遠足の催しなど、とても活発な活動をしております。中部、中国、九州の各支部は何れもよく連繫をとつて会員相互の親睦を図つてゐるようであります。

これから考えますと關西支部は教室に近過ぎるので郷愁が少ないのかどうかとも會員のみ多過ぎて纏まりがつかないような気も致しますので、今後運営委員会というような組織を作つて若い方に活動を願ひたいと思つてあります。どうか宜敷願ひます。何れにいたしましても若い會員諸君の發らつたる活動を希望するのであります。その推進力によりまして關西支部の發展を希望いたします。

本日の總會もその運びを若い方々にお願ひしたような次第であります。また、本年三月卒業生七〇名中、關西支部所屬の新會員は二六名でありまして、これらの方々に對し、そ

の卒業をお祝いし、輝かしい門出を祝するため御招待いたしました。が、勤務時間の関係等により御出席出来ない方がおられるのは残念に存じます。これをもちまして私の御挨拶いたします。

老會員から新卒業生諸君へ

明三七 多田耕象

新入會員諸君は母校を出られた時に教授諸先生から、又御両親達からも社会へ出られてからの注意をお受けになつたこと、思ひますが、老人の老慮心から私の氣付きました点一つを申述べ御参考にして欲しいと思ひます。勿論諸君は既に大学で教へつた學問を基礎に今後諸君の専門分野に就て一層鋭利に勉強して行かれなければならぬ、今後のためまごの御勉強こそ大切であるのであります。その外に今一つ、職場での諸君の周囲の人々との対人関係処理について充分に心得せられることが肝要であると思ひます。

昔の偉人達は殆ど自分一人の力で偉大な業績を残した様に見える場合があります。社会では如何なる仕事を推進するにも、それは組織内での多數人の所謂 team work によらなければ不可能であると思ひます。それ故人と人との関係が重要となるのであります。新入會員諸君の中には在学中既に学内のクラブ活動その他で委員、幹事等をやられてその方面の修業をされた方もあります。ところが、とに角実社会に出られるのはこれからで、今後対人関係について修業せら

れるのが緊要と思ひます。それにはその方面に関する多數文獻のあるのは諸君御承知の通りです。実は私もこの頃 Mc Graw-Hill で出版した *Tris O How to be a Successful Leader* を七〇の手習に読んでいます。

しかしこの方面の勉強をしそれを体得する最も簡易且効果的な方法は私の経験では「自分の周囲の人々についてよく観察し、そのよい所を眞似し悪い所は決して眞似ない」と言うことでもあります。諸君の職場で諸君より地位の高い人々の中には実に立派な方々で、あゝ言ひ風に自分等を取扱つてくれて自分も勉強せざるを得なくなると感じさせる様な人もあります。又中にはその人は実に立派な人でも諸君に對する扱ひ方は下手な人があるかも知れませぬ。それは兩方共諸君に對する師匠で、初めに述べた種類の人は諸君の *peer* の師匠であり、諸君はその人の眞似をすれば良いし、後の種類の人は *peer* 以上の手本でありその眞似をしない様にすべきです。又諸君の同僚の中にも或は諸君より地位の低い人達にも必ずや実に立派な人々がいて諸君の模範となるものがあると思ひます。社会に出られた最初は諸君のそれ等に對する観察力、批判力は一層鋭いと思ひます。どうかよく御注意になつて人に接し、人を取扱う修業をされると良いと思ひます。但し対人関係の処理は只の技巧ではいけないので自分の心の底に少しでも功利的欲望があつては断じてだめであります。私心のない自分の眞の眞心から出るものでなければならぬと私は確信します。諸君が社会に出られた最初から対人関係の問題について留意されるならば將來諸君の地位が益々進まれ、益々多くの人達を預かる様になるに違ひそれは諸君の職場、諸君の預かれる人達のためであるのみならず、又必ずや諸君自

身の為に良いと私は信ずるものであります。
將來の日本を背負て立たるべき諸君を思ふ老衰心から卒直に私の考えを申述べた次第です。(電力中央研究所長)

崔培柱君の思い出

西 助九郎

終戦直前の満鉄撫順炭鉱機械製作所電機工場には、日満韓蒙等の学生が多数勤負され、または実習に來ていた。私は彼等の指導を命ぜられた。これらの中に詰襟の黒の学生服を着た長身白哲の美青年の教官に連れられた満人の高等学校の学生の一グループが來ているのは知つていたが、面倒を見てやるべく余りにも私は多忙であつた。...

時機はズレルがこういうこともあつた。日本人先輩の家へ一緒に招待された。飲むにつけ一高寮寮を放吟した。突然彼は泣き出した。何故日本はもつと早くから中日提携をしなかつたのかと。その夜、彼の家のソソベラに寝た私は、早朝彼の炊いてくれたカニをすゝつて出勤した。途中電車で電機所を通る時、火力電機所に詳しい日本人が誰か残つて残つてゐるかと聞かれたのは、未だに耳に残つてゐる。既に建設への意欲を燃やしてゐた訳である。...

八月十五日終戦ノ 日本人の動搖は甚しかつた。翌日の夕方、彼は私の家へ飛んで來た。今日学校の豚を処分したから何かの足しにしてくれと、当時の金で五百円を差出した。私は一時金として千五百円しか支給されていなくて誠に有難いものであつた。色々のデマが飛んでゐるから、自分の家へ避難してはどうかと心配もしてくれ食料も運んでくれた。翌日から職場へ出る日本人は極く僅かであつた。私は毎日出勤した。崔君達が背負わねばならぬこ

れからの中国の為に、イキナリ我々が手を引くべきではないと思つて。私の三年間の残留生活の決意は既にその時出來てゐたのかも知れぬ。崔君は「高特設科出身であつた。撫順炭礦の幹部に、一高の先輩は多勢いた。私の手引きで先輩との折衝が出來て炭礦に入社した。ソ連軍と入れ替りに中共軍が進駐の頃、家内は出産と同時にチブスに罹つた。彼も黄痘に罹つて倒れた。私は見舞に行つた。それまでは何時会つても笑ひを見せないことになつた私も、その時許りは笑い顔を見ない崔君の奥さんがささやいてゐた。私の長男は二カ月前で夭折した。その時も彼は日本人以上鄭重な仁義をしてくれた。...

満洲人の切望により、再び奉天より撫順に歸つて來た。私は喜んだ。しかしながら私達の帰国の日は近づいてゐた。一夕別れの宴を張つた。当時彼は日本人帰国者順位決定の責任者であつた。当夜は私の家へ多勢の日本人が早く返えしてくれと頼みに來た。家内は今日は崔君と西家のお別れだから、そんな頼みごとは止めてくれと断つてゐた。翌日私は出勤して見たら予定より早く次回の還送者の中の一員に加えられてゐた。それから一週間、私は不眠不休で還送部陸軍部としての仕事をした。家のことは殆んど何も出來なかつた。当日駅頭で漸くかけつた。汽車は出た。遂に彼とは会えなかつた。...

八路軍が去り、國民黨が勢力を占めていた間は安泰であつた。彼の地位はグングン上り、日本人幹部の評判もよかつた。私は嬉しかつた。益正月には必ず私の家族を招待してくれ。時代は変わり、中共軍が優勢になつて來た。中国は政情次第で高位高官の人はその進退をハッキリせねばならぬ。彼は天津へ脱出を試みた。私の家族へもコソソリと別れを告げに來た。私は駅まで見送つた。遂に去つたかと私は失意した。彼がいなくなれば満洲に止まる気がしない。帰国への一歩が燃え立つて來た。しかしながら、日本人幹部並びに

しい時代に大きくなる子供達の間に本当中日提携の握手が出来るであらうことを望んでゐる。...私達の結婚写真は彼等夫妻が記念として持つて行かれた。彼の等の部屋に飾つておいた。私は結婚写真が手許にないことを悔まぬ。...

私達より三カ月遅れて最後の大部隊として帰国した人の話によると彼は当日最後の還送についての打合せをしてゐたので、余暇を見てヤンチヨに乗つて眠まで見送りにつけて来た時には、汽車が出た後だつた。西さんにくれぐれも宜敷くとの伝言を聞かされた時には涙が出た。彼のことは氣にかゝりながらも五星期は空しく去つた。...

私の長女は撫順の順をとつて順子という。彼の長男は福春といつた。同じ年で一緒に遊んでいた。四つ分の時に奉天から錦原まで飛行機に乗つて帰国した長女は、今年小学校五年生になつた。今でも崔君のことに飛行機に乗つたことは覚えてゐる。新

想ひ出の記

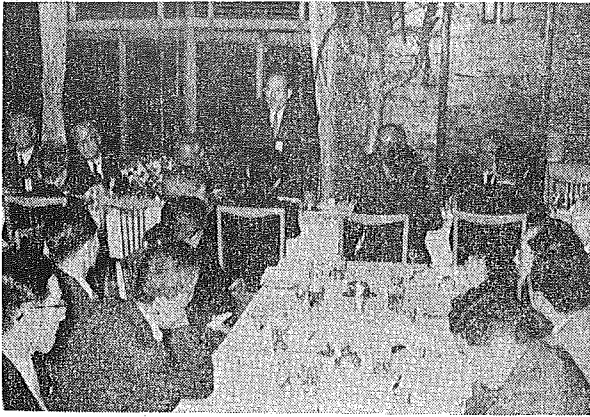
大 四 吉野錦三

燈台基暗らしの響の通り一向知りませんでしたが、車折神社前の京福電鉄嵯峨変電所に設備された瑞西B・B・C製のグラヒリヒター(水銀整流機)が電氣教室へ寄贈され、三十余年の永い勤めを卒えて学生の実験資料として設置され、余生を送つてゐると云う写真(会報五号の四頁所載)を見て、そぞろに懐かしく転た今昔の感を深からしめたものがありました。...

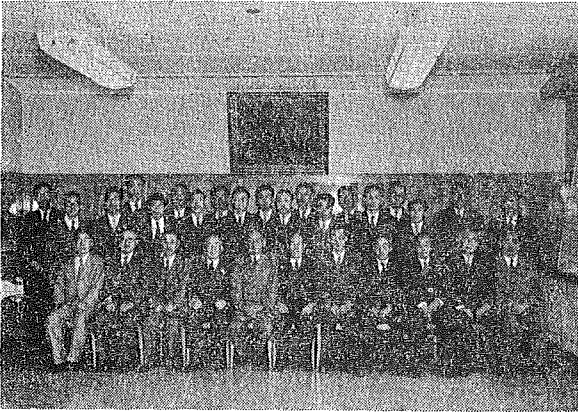
教室の動き

前田憲一

本年度の教室主任を勤めます関係上、私から教室の近況について御報告申上ります。昨年度から全部新制になりまして去る三月卒業いたしました新制卒業生は約七〇名、本誌前号に報告通り就職は極めて順調にまいりました。現在は新制大学院修士コースの二回生一五名、一回生一八名、学部三、四回生夫々約六〇名宛、更に教養部に二回生六〇名、一回生七五名であります。修士コース一回生一八名の中には二名の他大学(名古屋工大と新潟大学)新制卒業生がおり、本学卒業生と共に試験をパスして來た優秀学生であります。これに対して教室職員は、一昨二



関
西支部
鳥養会長挨拶



北
陸支部

支部總會の面影

各支部の総会が開かれ、鳥養会長、山村幹事は無欠席の出席。それに教室の先生が、こもく出席されて、なごやかな総会と懇親会が開かれたことは目度いことであつた。

この面影に片鱗が見えている通り徳利と女性のサービスに愉快であつたことは申すまでもなく、割愛された写真には或は罰金に価するものもあつたろうが、人権尊重のため会報へは遠慮されたい。

九州で、こつそり大宰府に行き、お石茶屋でお石さんを入れての記念スナップを一寸お目にかける。

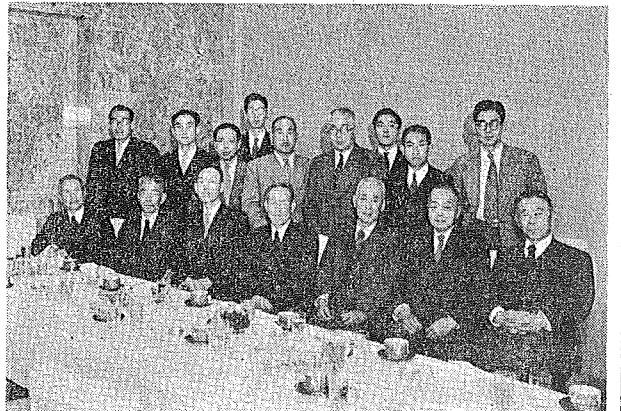
東京支部は写真なしで淋しい。



中
国支部



九
州支部



七年度に増設を見ました第七講座（無線通信工学）により、七教授、七助教授の外、講師三、助手八、雇傭人一〇、合計三五人であります。既に御存じの方もあるかと存じますが、本年度から電気工学教室の兄弟分として電子工学教室が誕生しました。これは主として教室長長老教授達の精誠盡力により、又工学部、大学本部、文部省の御理解と御支援とによりまして、出来たものであります。先程新入一回流七五名と申しましたのは、電気五〇、電子二五名の定員を合算して入学させた訳であります。正式にはこの二五名の一回流が四年後に電子工学科の卒業生ということになる次第ですが、教室の陣容としては本年度より、電気五講座（松田、林重、大久保、前田林子）、電子三講座（加藤、阿部未定）に別け、新入一回流の進学を待たずに電子工学の講義をなされるべく早い機会に電気が在学生の希望者を実施する様、教室全体でその準備を急ぐこととなつてをります。

御承知の如く近代産業の特徴は、熱、機械、電気を動力とすることに完全な成功をなし遂げまして、現在ではこれ等動力を人間にかわる何ものかによつて制御する段階に來ている処にあります。この制御を自由自在に行う為の基となる学問を、我々は電子工学の名の中に包含しようとするのであります。教室として政府に要求しました内容も、所謂弱電工学と共に自動制御工学二講座を含んであります。本年度認められましたのは、新設一講座のみで、電気から移す二講座と合して三講座の新教室となつた訳であり、來年度二講座を認められれば、電気、電子各々五講座となります。

電気、電子の兩教室と申しましたも、實際は十講座（現在八）を持つた一つの教室という考え方で將來進んでゆくこととなつておりまして、懇話会、落友会に関する関係もこの線に沿つて参りたいと希望いたしてをります。又電気工学科プロパーとしまして、内容は従來通り強電、弱電を含むようには致し、一方電子工学科プロパーとしては弱電、自動制御を含むということに相成ります。最後に教室在学の学生について一言申しますと、戦後の混乱期の影響もありまして、近年学生の勉学に対する気が稍々節度と緊張に欠ける点がありました。教室職員の見導により、次第に勉学態度の改善を見つゝあり、今後一段とその実を挙げたいと職員一同期している次第であります。又大学院在学の学生はその氣風に自主的、積極的な所が多々見受けられますことは誠に喜ばしいことで、かゝる氣風を助長することが教室職員の見導と相俟つて当教室の學風を挙揚することに期待している次第であります。明年三月には修士が卒業しますが、これ等の學生に對しても、学部卒業生同様御高配に預りたく御願ひ申上ります。

鮮やかな綱紀肅正

大五 増見修治

僕が始めての委託學生として海軍から京大電気教室に入つたのは大正二年だが、その翌年にシームズ事件と云う汚穢事件が海軍に起つた。当時海軍委託學生は平岡磯君と二人だが、事件が大きく扱われ出したので僕等も注意的になつた。僕等は規定により軍服で、腰に短剣をくつつけて通学し、一般學生と共にテニスをやりボートを漕ぎ遠足等も一緒にやつていた。厩は百万遍横の香山食堂に行つていたが、御座のお代りは無料と云うので米の安かつた事を思はするが、僕は三つ迄お代りした人を見た。一度に茶碗三杯は充分あつたものだ。

処がシームズ事件は僕等の上には災が及んで來た。法科の教室の辺を歩いてゐると、後から罵声を浴せる者があるに至つた。問題の人と云うのは艦政本部第五部長藤井光五郎機関少将で一部長に過ぎないのだ。シームズシユツケルト社が海軍から受けた註文と云えば電氣に限られるので、英國あたりへの軍艦の註文に較ぶれば非常に少額のもので、その五分一セント位が仮りにコミッションになつたとしても言う程のものぢやあるまい。当時の記録を調べるとシームズ社は最後迄コミッションを出した事なしと言ひ張つてゐる。

然し藤井部長は責任を感じて、現役を退いてこの事件は片付いた。処が是に続いて大きな問題が起つて來た。それは海軍内の薩閣打倒と云う事である。明治維新の当時、わが國に陸海軍を建設するに功勞があつたのは、何と云つても陸軍に於ては長州、海軍に於ては薩摩である。西郷從道、伊東祐亨、次いで山本権兵衛、樺山資朝等の元勳が海軍の全権を握つておつた。薩閣打倒と云う聲が起つたのは山本権兵衛大將を現役から退けたと云うのであるが、権力が強いのでその役目を引き受けようとする人がない。

豪胆にして衆望を集め、清廉潔白徳一世に高かつた八代六郎中將こそは、この大役に最もふさわしい人と云えよう。八代さんは日露開戦の勇頭、一大佐として軍艦千代田の艦長たり、仁川港内に碇泊中の露艦ワリヤーク撃沈の命を授かつた。夜半仁川港外に到着したら月澄んで夜は沈々、艦長は一管の尺八を取り出し、艦長室で吾吐朗々千鳥の曲を奏でたと云うので風流艦長の名が高まつたと云う高士である。

八代さんは権兵衛大將から見たら随分後輩だが、この大任にはこの人を措いて他になしと云うことになつた。そこで大將に昇進して海軍大臣の職に就いた。任務は只一つ、山本軍事参議官の任を解いて予備役に編入せしむることだ。

八代さんはこの任を果して、急遽行季をまとめ、京都南禪寺の一僧庵に行き移つて來た。勿論自身も現役を退いたのだ。三河武士の本領実に見事なものだ。私は当時、弓術部に入つていたが、丁度その頃弓道場が学内の一隅の出来たばかりで、委員達は打ち揃つて僧庵に八代大將を訪れた。新道場の為に通額の揮毫を願つた。大將は快く引き受け墨痕淋漓「正中」の二字を揮書された、正しきは當るとは大將の信念であろう。大額は道場に掲げられた。

人は八代大將を黒谷の僧庵に隣道した能谷蓮生坊の心境に相通するものがあるかと云つた。私共への罵声は勿論絶えた。（田中機敏製作所）

東京支部總會の記

五月十二日虎の門共済會館で、東京支部の第二回總會が開かれた。本部から鳥養會長、大久保教授、山村幹事のほるぼる御來臨があり、会員も一三〇名出席という盛況で、吉岡幹事の司會の下に總會は進められた。

先づ佐藤支部長の挨拶から始まつたが、事務報告では、(イ)本部の名簿発行に對する支部の協力について報告し、これに因依した幹事並びに會員の努力に對し謝意を述べられ(ロ)見学会の盛會であつたこと、読書會、趣味グループの局部的な小集會がもたれたことを報告して、更に

に置いていたが、当時海軍大学の校長で、常に學生に哲理を説き、オイケン、ベルグソン等を講がされたものだ。

八代さんは権兵衛大將から見たら随分後輩だが、この大任にはこの人を措いて他になしと云うことになつた。そこで大將に昇進して海軍大臣の職に就いた。任務は只一つ、山本軍事参議官の任を解いて予備役に編入せしむることだ。

次は議事に這入つて二十八年度決算、二十九年年度予算が承認決定された。

議事が終ると新會員の歡迎の辭、新會員代表の謝辭、各自の自己紹介が拍手裡に行われ、続いて鳥養會長の挨拶に移つた。會長のスピーチは一種のユーモアを漂わしながら最後は東京支部たるものは特は責任があるという意味で結ばれた。

以上で懇親會に近つと山村幹事の本部及び各支部の近況報告、大久保教授の教室の近況報告があり、乙葉副支部長の鳥養會長藍綬褒章受賞の報告並に祝辭があり、当日の余興賞品の寄贈者三菱電機、東京電力に對する謝辭が述べられるの中に、ビールの泡は発散し、メートルは次第に上昇して來る。時はよし幹事が知慧をこぼつた「あてもの」の余興令をあてよ」というのである。山村幹事などは「今日の出席の平均年度は……」などと中々慎重を極めたのであつたが、投票を終つた鳥養會長は「へたな推算は駄目なものだよ、どうだ僕のは七五三をかえりつて三五・七だよ」と周囲をかえりつて三五満々の御様子だつた。電源開閉會社提供の映画佐久間電所現場の実写を終つて、幹事の発表によると平均年令は四〇・一才丁度とある。はるばる高田から見た園友さん四一・三才が一等で満場拍手の間に賞品が渡される。幹事が「序に奥さんのお年は何々才です」と御披露に及ぶ始末に、その都度満場どつと來て、当人も苦笑という状景も添加される。

十等まで拍手又拍手で、それが終ると今度は単純くじ引が始まつて、これ又大喝采裡に終りとなる。

以上の状況で、散会は会場の制限時間を過ぎたのであつたが、この間に読書室の参加申出を登録する、囲碁フアンの打合せがある、ゴルフ狂が世話役を買つて出るなど、それぞれ後日の懇親を倍加する打合せも進められたことであつた。

北陸支部誕生

昨年末加藤先生が北陸地方御出張の際、北陸支部の結成につき御勸誘を受けたのを機として同窓生の間で、もつてから支部結成の希望が多かつたので、今回偶々鳥養先生北陸御來訪の報に接し、この機逸すべからずと着々準備を進めていた。

四月始め本部山村幹事より、鳥養先生その他の方々が五月六日富山着の予定と連絡があつたので、この日

に目下産業大 会開催中で賑う富山市に於いて浴会式を挙げることに決定した。

当日は鳥養会長、山村幹事、阿部林兩先生をお迎えして富山市櫻橋通り電気ビルにて会員三七名中二五名出席の下に午前十一時より浴会式並びに創立総会を開催した。

会はまだ發起人代表長井要蔵氏(大・五)の挨拶に始まり、同氏を座長として型の如く会則の審議、役員推挙等を行い、次いで午餐を共にしながら懇談した。

鳥養先生は祝辭のなかで米国におけるこの種会合の活躍状況を例にとり、浴友会の使命について御説明激励して下さつた。又阿部先生から電気工學教室の近況等についてのお話しを伺つた。

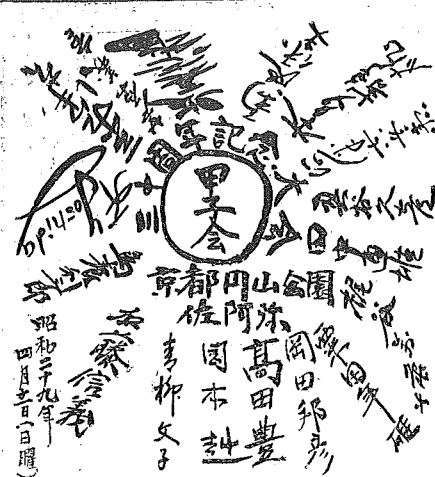
最後に阿部先生の音頭により北陸支部の万才を三唱して感会裡に解散した。(増田盛雄記)

甲子会三十周年記念大会

大正十三年甲子の年に学窓を巣立つてから夢の間に三十年を経過した。思い出の京都円山公園阿彌において残りの花を眼下に見、遙かに展開した四条通りの夜景を眺めながら恩師を交え集る会友十三名、全く童心に返つて楽しい数刻を過ぎた。席上恩師の隠し芸も亦なつかしい限りであつた。

卒業当時三十八名であつた会員が現在では二十八名、三十年間に十名の会員に別れたことは誠に淋しく悲しいものである。

鳥養、岡本、加藤諸先生や青柳先生御令室の御出席を頂いたことは会員一同本当に感謝しました。甲子会も今後は毎年集合することを約して翌日大阪で散会した。(菊地記)



北陸支部会則

- 第一条 本支部は浴友会北陸支部と称する
 - 第二条 本支部の事務所は金沢市に置く
 - 第三条 本支部は本部の目的及び事業を遂行するための必要な協力をする
 - 第四条 本支部は前条の目的を達成するため次の事業を行う
 - 一、本部との連絡及び協力
 - 二、支部名簿の整備作成
 - 三、年一回総会を開く
 - 四、その他本支部の目的を達成するに必要な事業
 - 第五条 本支部は左の会員で組織する
 - 富山県、石川県、福井県に在住する会員
 - 第六条 本支部に左の役員をおく
 - 支部長 一名
 - 副支部長 二名
 - 評議員 若干名
 - 第七条 役員は総会で定める
 - 第八条 支部長は支部業務を統轄する、副支部長は支部長を補佐する
 - 第九条 支部長は支部の諮問に答える
 - 第十条 支部長は支部の業務を処理するため幹事若干名を委嘱する
 - 第十一条 役員は任期は二年とする、但し重任を妨げない
 - 第十二条 本支部は会費及び寄附金をもつて経理する
 - 第十三条 会員の会費は年額一〇〇円とし本部会費三〇〇円とともに会計年度の始めに納入するものとす
 - 第十四条 本支部の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る
 - 第十五条 本支部の決算は毎年総会において報告する
 - 第十六条 本支部会則の改正は総会の決議を経ることを要する
- 附則
本会則は昭和二十九年五月六日より実施する

關西支部第一回總會

春には少し薄ら寒い心地の良い天気だつた。出席者百三十三名という盛況裡に終始した。

四月十四日午後四時から大阪中央電気倶楽部で先づ電源開閉の映画。これは関西電力の厚意により丸山発電所その他の発電所の実況フィルムを遠く見学に出かけた心地がした。次に一本松副支部長の御配慮で住友金属の業務映画。天然色にて美しく得る処多かつた。

映画終つて講演に移り一本松氏の御高麗により

朝日新聞社 熊本経済部長の鉄のカーテン内の話。ソ連その他の衛星国における生活、思想、物価人情、宗教などと聞き難い話の内容に接して一同傾聴した。

終つて引き続き総会が開かれた。石川支部長の挨拶

山村幹事の事務並びに会計報告

前田教授の教室状況

終つて直に食堂に這入り、懇親会に移る。

石川支部長の挨拶あつて祝杯を揚げ食事。大食堂は殆ど余地ない程の賑かさ。新入会員は先輩の間に挟まれ世間へ第一歩の喜びに昂奮。デザートに入り鳥養会長のお話、次に山村幹事が支部の概況を述べ、その最後に関西支部の会費納入のパーセントが他から劣つていると事務職員のような口調で締め上げる。正に名幹事と拍手が起る。

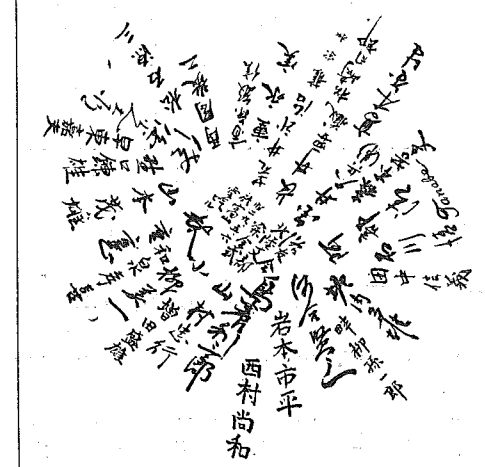
続いて今度は山村幹事がテーブルスピッチの進行係を勤める。第一矢は大五の増見修治氏。海軍出身なので造船汚職にからませて面白い話を一くさり。

第二矢は大一の栗田年雄氏。先月卒業して満三十年になるので謝恩会をやつたとの老人振り。交通道徳でチクリと頂門の一針。

三番目は昭二の熊谷三郎氏。先生だけに、大学の社会へのサーピス論根の下」と言ひ映画が掛つていた時松田先生が留学するのでパリの屋根の下に行くのだと披露された。学生達があざむきつたという話。但し屋根の下で何をするか考えもせず。五番目は関西電力を代表して昭一

〔北陸支部役員〕

支部長 高木 金生
幹事 畔柳孫一郎
同 西岡 敬二
同 増田 盛雄



七の珠玖泰吉氏。人間のする事は誰でも出来るという押しの手を伝授。山村幹事は、もつともつと進行させたかつたが食堂の時間が迫りフル1ツが出て、のどをふさいでお仕舞となつた。やがて閉館のベルが鳴り解散した。

中国支部總會の記

中国支部春の總會は四月六日、本部から鳥養會長、山村幹事、教室から松田先生を迎えて、中国電力富島荘で午後五時半より盛大に開会した。...

九州支部總會の記

九州支部總會は鳥養會長の御來福の機に、昭和二十九年四月四日(日)本部より鳥養會長、山村幹事、教室より松田先生を迎えて電気ビル菊水サロンで午後五時より盛大に開会した。...

洛友会費領收

三月一日より到着の分 五月 日まで

Table with 3 columns: Name, Amount, and Date. Lists members and their contributions for the March period.

昭和二十九年(第二回)

Table with 3 columns: Name, Amount, and Date. Lists members and their contributions for the second half of the year.

昭和二十九年(第一回)

Table with 3 columns: Name, Amount, and Date. Lists members and their contributions for the first half of the year.

Table with 3 columns: Name, Amount, and Date. Lists members and their contributions for the first half of the year.